

教員名	松藤 薫子 (MATSUFUJI Shigeko)
所 属	語学センター
学 位	人文科学博士(2000 お茶の水女子大学)
職 名	講師
URL/E-mail	shigeko@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

言語心理学 / 英語学 / 言語学

◆主要業績

総数 (3) 件

- ・「日本語児による数量表現「全部」の獲得について」お茶の水女子大学大学院英文学会編、『英語圏研究』第1号(通算 第35号), 62-80.
- ・松藤薫子 絹谷弘子 エドワード・シェイファー 牛江ゆき子「英語 CALL 教材を利用した自習における支援方法の比較」お茶の水女子大学『人文科学研究』第2巻, 217-228.
- ・松藤薫子 絹谷弘子 エドワード・シェイファー ナガトモ・ダイアン 牛江ゆき子「CALL 教材を利用した自習のメールによる支援効果」LET(外国語教育メディア学会)第45回全国研究大会にて口頭発表, 発表要項 60-61.

◆研究内容

ここ数年、個人研究として子どもが数量表現をどのように獲得するのかと共同研究としてお茶の水女子大学の学生にとってどのような自習支援プログラムが効果的なのかについて研究を行っている。2005年度の個人研究では、全称量化 ALL の意味を表す限定詞の位置に生じる「全部 (の)」を含む文がいつ頃理解・発話されるようになるのかを、3歳1ヶ月から5歳4ヶ月の日本語児18人と大人の日本語母語話者10人に対して行った真偽値判断課題による実験によって得られた資料に基づき考察した。その結果、日本語児は「全部 (の)」を3歳8ヶ月以降、4歳6ヶ月位に正しく理解することを明らかにした。これは動的文法理論に基づいて予測された「全部」の獲得過程の妥当性を支持するものであることを論じた。さらに実験で観察された大人と異なる解釈や発話も、動的文法理論により説明できることを示した。共同研究では、お茶の水女子大学で設定されたコア英語の目標にできるだけ到達できるように自習に取り組み、本学の学生にとって効果的な自習支援の方法を見いだすために、2005年度前期において英語の授業2クラスにCD-ROM CALL 教材 Listen to Me!シリーズ中の College Life を自習課題とし、それぞれのクラスで異なる支援方法 (i)電子メールと(ii)学習記録進捗表提出・返却)を用い、その支援効果を比較・考察した。その結果、両支援方法の有効性を確認した。メールの得手・不得手により、学習に良い方にも悪い方にも心理的影響を及ぼしやすいことがわかった。またアンケートの結果、学生の英語力のレベルや興味・関心に応じた多様な教材提供する必要性が示された。

◆教育内容

学部のコア英語を担当した。担当した授業では、授業時間外に自分の語学力と興味にあったリスニング教材とリーディング教材で自習をするように指導・支援し、学習時間を増やしてコア英語の到達目標にできるだけ到達できるように目指した。基礎英語の授業では、比較的平易な英文を聞いたり読んだりして要点をつかむことができるようになることを目指した。中級英語の授業では、英語の新聞、論説、ニュース、レクチャーに使われる英語が理解できるようになることを目指した。総合英語の授業では、英語の新聞、論説、ニュース、レクチャーに使われる比較的長い英文の論点を正しく理解できるようになることを目指した。

◆Research Pursuits

For these several years, I have investigated how children acquire quantificational expressions in my individual research and what kind of self-learning support program is effective for the students of Ochanomizu University in my joint research.

In my individual research of 2005, I examined when Japanese-speaking children understood and produced sentences including the determiner quantificational word *zenbu-no* ('all'), which occurs in the subject position and indicates universal quantification on the basis of the findings obtained from a study utilizing a truth-value judgment task.

It was found that the Japanese children past 3 years and 8 months (average age: 4 years and 6 months) understood *zenbu-no* correctly. The result lends support to the acquisition process of *zenbu-no* that is predicted based on the framework of the Dynamic Theories of Language, developed in Kajita (1977, 1997, 2002, 2004), which assumes the non-instantaneous model of language acquisition, or focuses on the process of language learning and attempts to characterize the notion of "possible next grammar" on the basis of the properties of the present grammar.

In my joint research, in order to find effective ways to support self-study for students at Ochanomizu University, we conducted a comparative study of their progress in English under different instruction methods: email vs. report form submission and return.

It was found that the effectiveness of both methods is confirmed.

As a result of the questionnaire, the necessity of offering students various self-learning materials suiting their levels and interests was shown.

◆Educational Pursuits

I taught core curriculum English classes at the undergraduate level. I supported students' self-learning of English outside the classroom as well as teaching English classes that would improve students' basic reading and listening ability.

Basic English classes were designed to help students read plain English prose and comprehend English spoken at a somewhat slower speed.

Intermediate English classes were designed to help students read and comprehend authentic short materials such as books, newspapers, TV programs and lectures.

Advanced English classes were designed to help students read and comprehend authentic long materials such as books, newspapers, TV programs and lectures

◆将来の研究計画・研究の展望

今後も、個人研究では、数量表現の意味の獲得を実証的に調査することによって、言語獲得モデルの妥当性を検討し、言語獲得原理の内容を解明したい。それにより、刺激の貧困にもかかわらず言語獲得が可能なのはなぜかという言語獲得に関する「論理的問題」といつ、どのような言語発達がみられるのかという言語獲得に関する「発達的問題」の両方に妥当な解答を与えうる言語獲得理論とはどういうものかを検討したい。

共同研究では、これまでに作成した学習者の自律性を高めた自習支援プログラム基に、自律型学用の教材と学習者の現状を調査し、学習遂行のために必要な継続的支援として考えられる教員による学習者の支援と学習者同士のやりとりを効率よく行うのに適したコースマネジメント・システム（CMS）を導入し、より効果的な自律型学習支援プログラムに発展するように改良したい。そのプログラムを運用し、学習者の自律支援効果を検証したい。また、CALL の運営と CMS の効果的な利用法を提案したい。

◆受験生等へのメッセージ

受験生のみなさん、受験勉強で大変かもしれませんが、目標を持って着実に学習してください。

大学の英語の授業では、周到に準備された最新の教材を使用し、これまでに学んだ事柄を確認しながら、大学生レベルの語学力を養成します。英語の基礎力を伸ばすためには、積極的に英語学習に取り組む必要があります。できるだけ早くこのような習慣を身につけることが大切だと思います。意欲的に英語学習ができるようになると、英語を通して自分の世界がもっと広がり楽しみも増えることでしょう。